

1. 評価報告概要表

作成日平成20年 3月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	4070901485		
法人名	医療法人 友愛会		
事業所名	グループホーム サンテラス		
所在地 (電話番号)	福岡市博多区諸岡4丁目26-26 (電話) 092-588-8558		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年3月21日

【情報提供票より】(20年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 16人, 非常勤 4人, 常勤換算	17.6人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input type="radio"/> 単独 <input checked="" type="radio"/>	新築 / 改築 <input checked="" type="radio"/>
建物構造	鉄筋 造り	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	<input checked="" type="radio"/> 有 (円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	600 円	おやつ	昼食代に含む
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	59 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	友田病院、福岡保養院、ゆうあいデンタルクリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

主要道路より少し奥に入った閑静な住宅街に位置し、1階がデイサービス、2階3階がホームとなっている。母体は医療機関であるが、高齢化社会に向けて地域の要望でまず老健施設が建てられ、その後ホームを開設した。認知症で要介護状態の人がその地域で自立して生活できるよう生活機能や身体機能の維持または向上を目的としている。母体の病院はもとより法人内には訪問看護ステーション、歯科がありホームとの連携が取れており、利用者は安心して生活出来る環境にある。ホーム内には決して華美にならない家庭的な置物や飾りがされており、自然の光の取り入れや温かみのある照明が使われ落ちついた雰囲気である。職員の表情は明るく元気で、その為か利用者の表情も生き生きし、日々の生活を楽しんでいる様子が見られた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の改善点は1.食事時に職員が利用者と同じのものをとっていない点、2.市町村との関係づくり、連携の強化があげられている。評価後、ミーティングを開催し改善策を検討し運営推進会議で報告を行っている。食事については職員は利用者と同じものを食し改善されていたが市町村との関係作りに関しては十分といえる状況ではない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>目的・意義に関しては事前に説明があり、まず職員全員は一人ずつ記入してもらった。その後、全員でミーティングを開催し検討を行って代表者がまとめあげた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>参加者は町内会長・民生委員・家族代表・地域包括支援センター職員・母体法人の事務長・ホーム職員が参加しており、概ね2ヶ月に1回開催されている。状況報告はもちろんのこと毎回様々なテーマを決め開催されている。メンバーからは意見や質問等があり、意見等は後に会議を開催し検討して、結果を次回の運営推進会議で報告をしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>意見や要望、苦情は家族面会時に聞いたり、家族会、運営推進会議等で意見交換を行ったりしている。要望等があった場合はミーティングで検討し改善を行っている。利用者の暮らしぶりや心身の状態も面会時に伝えたり、月1回送付する行事予定に担当職員がコメントとして記入し報告を行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>夏祭りや文化祭、清掃活動等地域の行事には積極的に参加したり、近隣の保育園や小学校との交流会を開催したりしている。買い物や散歩の外出時には近隣の方々と挨拶を交わしたり、会話をしたりし顔なじみとなり、お菓子や花の差し入れを頂いたりする関係となっている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている	昨年11月に理念の見直しを行っている。アットホームで笑顔があふれる生活ができるよう利用者それぞれのペースに合わせ、地域の中でその人らしく生活できるように支援するという地域密着を考慮した理念を作り上げてる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は特に唱和は行っていないが、職員の名札の裏に印刷されており常時確認することが出来る。また、1階の応接室や各ユニットの入り口など目の付きやすいところに掲示をしている。職員は常時名札の理念を確認しながら、日々の支援にあたっている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、自治会には加入していないが、町内の夏祭りや清掃活動など地域の活動には積極的に参加している。職員と利用者は地域の方々と顔なじみになっており、散歩時に声をかけられたり、花などの差し入れを頂いたりする関係となっている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は各職員に配布されそれぞれ記入してもらい、その後、全員で検討を行い作り上げている。前回の外部評価に関しては、全員で会議を開催し具体的な改善策を話し合い、改善に向けての努力を行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催され、町内会長・民生委員・家族代表・地域包括支援センター職員・法人事務長・ホーム職員が参加している。状況報告はもちろんのこと毎回様々なテーマを決め開催されている。メンバーからは意見や質問等があり、意見は後に会議を開催し検討して、結果を次回の運営推進会議で報告をしている。		

グループホーム サンテラス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前回評価の改善事項でもあったが、きっかけがつかめず行き来はあまり無い。		地域密着型サービスとして利用者がその地域安心して暮らすためには、地域の住民のみならずその市町村との協力体制が必要となる。まず、市町村の窓口パンフレット等を持参しホームの実情やケアサービスの取り組みの説明などを行い、実態を知ってもらうことから始め、除々に関係づくりを行っていくことが望まれる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホームの社会福祉士が講師となり研修会を開いている。職員は概ね理解しており概要は説明出来る状態である。パンフレットも受付に常備されている。		
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや心身の状況は家族面会時や月1回送付する行事予定表に担当職員がコメントを書き報告を行っている。また、利用者の暮らしぶりが確認できる写真が豊富でカラフルなホームだよりを作成し配布をしている。金銭は預かり金としているが、日々の入出金の出納帳をつけ家族より確認印をもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、運営推進会議で意見や要望を聞くようにしている。いずれも話しやすい雰囲気をつくるよう心がけている。出された意見等に関してはミーティングを開催し検討を行っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当制としユニット間や同法人の別の施設への異動もないようにしている。離職の場合は3ヶ月前に申し出てもらうようにし、十分な引継ぎを行い、利用者にはダメージを与えないよう配慮している。		

グループホーム サンテラス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用は法人で行い、年齢・性別等で排除することは無い。法人内にはグループホームの他デイサービスや老健施設があるが、全施設を見てもらい本人の希望を聞き適しているところに配属するよう考慮している。入職後は特技や趣味をケアに生かしてもらっている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>年3回ほど、法人での研修やホームでの勉強会を行い、職員に理解してもらっている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>母体法人での研修やホーム内での研修が行われている。外部研修にも必要な人には受講してもらっている。研修受講後は伝達講習を行ったり、研修報告書を回覧したりし他の職員にも周知している。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>ケアマネジャーの会合「ケアマネット」や他事業所との親睦会に参加し情報交換等を行っている。近隣のグループホームや小規模多機能事業所との交流は少ない。</p>		<p>事業所の質の向上および地域全体のサービスの水準の向上のため、情報交換だけでなく勉強会や相互評価などを行い質の向上を目指し、お互いに連携をとることが求められる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>申し込み前に本人および家族には見学をしてもらい雰囲気をつかんでもらうようしている。入居決定後は必ず自宅や入院先を訪問し、本人の状況の把握をしたり、顔馴染みとなりスムーズに入居できるよう心がけている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>職員はリビングなどで一緒に時を過ごす中で、だしのとり方や味噌汁の作り方など様々な生活の技を教えてもらったり、注意を受けたりすることがある。人生の先輩として接し、喜怒哀楽を共有している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の会話や行動、表情より本人の意向や希望を汲み取るようになっている。本人の言葉や表情等は介護記録の中に記載され、計画作成時の参考としている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人および家族より意向や要望を聞いている。本人の言葉や表情等は日々の介護記録の中に記載され、職員全員の意見を聞き、検討し計画を作り上げている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは基本的には3ヶ月に1回だが、状態の変化があった場合や退院時には本人、家族、医師等を話し合いを行ない見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診で家族の同行が不可能な場合は送迎、付き添いを行っている。精神科受診の場合は必ず付き添うようにし、本人の状態の報告や医師からの情報を得るようにしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	母体病院をかかりつけ医としている利用者が多いが、本人および家族の希望により今までのかかりつけ医を継続している利用者もいる。受診の支援も行っており、家族が付き添いできない場合は職員が付き添いを行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針が作成されており、入居時に説明し、本人および家族に同意をもらっている。その指針の内容は看取りの体制、環境、実施内容、各職種での支援内容等こと細かく記載されており、具体的で非常にわかりやすいものとなっている。ホームの考え方としては、最期まで看ることを基本とし、重度化した場合は家族、医師、職員とで十分な話し合いを行ない対応している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使い、言葉かけには注意を払い利用者の誇りやプライバシーを損ねないように常に気を遣っている。個人の記録は事務室のキャビネットに納められ、目に付きにくいところに設置されている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはあるが、その日利用者の希望に添った支援をするようにしている。買い物や飾り物作り、晩酌など利用者のペースにあわせ、見守りながら生活を送っている。		

グループホーム サンテラス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は母体の病院より配食されるが、盛り付けや配膳、後片付け等、利用者と職員が協力して行っている。職員も同席し同じものを食し、会話が弾む楽しい雰囲気の中で食事が行われている。職員は利用者にも目を配り、さりげなく食事の介助を行っている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に曜日や時間帯は決めておらず、本人の体調やバイタルを考慮しながら希望に添うよう支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意ごとや好きなことを把握し、それを生かすように支援している。食事の後片付けを任せたりその日の主役となってもらったりし、張り合いのある生活ができるよう支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩は本人の体調・天候を考慮し希望に添うよう支援をしている。また、ドライブ、お寺めぐり、レストランへ出かけたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の入り口、各ユニットの玄関および居室は施錠されていない。職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、見守りを徹底している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で年2回、ホームのみで月1回の防災訓練を行っている。特にホームでの訓練は様々なケースを想定して訓練を実施している。訓練は母体およびホームの職員と利用者のみとなっており、地域の住民の協力を得る訳では無い。		職員のための誘導だけでは限界があること(特に夜間)を認識し、日頃からの地域住民との協力体制の話し合いおよび訓練、避難時の申し合わせ等を行うことにより、実際の災害時に備えることができる。運営推進会議等で話し合い、協力を呼びかけることが望まれる。

グループホーム サンテラス

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量および水分量は記録されチェックされている。栄養量およびカロリーは食事ごとに計算されており、利用者の希望、状態により量や形態を替え提供されている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の1階がデイサービス、2階・3階がホームの各ユニットとなっているが各ユニットの入り口は玄関となっている。そこには季節を感じさせる置物や飾り物が設置され、来訪者をなごませる。リビングや廊下には利用者が作られた手作りの作品が飾られたり、貼られたりしている。リビングには自然の光が入り、照明も温かみのあるものが使われており、刺激がなく、静かな音楽が流され、落ちついた雰囲気の中、利用者は居心地よく過ごしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔からの使い慣れた家具や小さな仏壇が持ち込まれたりし、それぞれの利用者の個性を活かした部屋となっている。壁には家族の写真や貼紙などの作品が貼られ、利用者は居心地よく過ごしている。		